

令和 2（2020）年 2 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和 2（2020）年 2 月 5 日（水）
午前 11 時～12 時
柏崎市役所大会議室

1 発表事項

最初に新型コロナウイルスに関する柏崎市の対応をお話します。全国的に新型コロナウイルスの問題は大きく取り上げられ、国民の皆さんの大きな関心を呼び、心配をしている国民の方も多いと承知しています。柏崎市も例外ではないわけですが、例えば先般、友好都市の中国の峨眉山市にマスクを送りました。市民の方の中には市が峨眉山市にマスクを送ったために、市内のスーパーやコンビニエンスストア、ドラッグストアからマスクが無くなったのではないかと、言う声が私の所にも届いています。しかし、これは柏崎市のみならず全国的にマスクが不足、欠品していることから、私どもが送ったから市内のマスクが無くなったということには、一概には結び付けられないということです。先般、私どもはまず医療機関にマスクが十分確保されているかどうかということを確認し、当面のストックはあるとのことでした。それから、個人医院なども、もう少し時間がかかるようですが、概ねストックはあるとのことでした。学校に対しても必要な児童生徒に対して、医務室で対応が出来るか確認を行い、今のところ確保できるが、ただ余裕を持ってもう少しだけもらいたいという話がありましたので、市が備蓄をしている 3 万枚のマスクの中から一部、学校に備え付けます。医療機関からも要請があれば、マスクを供給させていただきたいと思っています。なお、マスクの効用に関しては、首相官邸のホームページに新型コロナウイルス感染症に備えてというところで正しい手の洗い方がアップされています。同様に、市のホームページの大事なお知らせで新型コロナウイルスに関連した肺炎についてという項目を設け、具体的に予防として、衛生的な手洗いを市民の皆さんに今周知をしているところです。もう一つ、新型コロナウイルスに関して、昨日 10 時に株式会社リケンから、株式会社リケン武漢子会社からの、日本人駐在員帰国者の対応に関する情報がリリースされ、それを受けて市からもリリースを既に行ったところです。もう一度確認ですが、武漢のリケンにいらっしゃった方々は日本人 10 人です。そのうち 5 人は、政府のチャーター便が出される前に帰国した方々で、うち 1 人が柏崎在住者、既に柏崎に帰っていて自宅待機しているということです。本人並びにご家族の健康状態は、良好です。また残り 5 人の方々は、政府のチャーター機で帰国し現在は、政府が手配した千葉県のホテルに滞在中です。一部報道の中に 6 人が新潟県関係者という報道がありましたが、これは 10 人の中の 6 人ではなく、武漢にいた方が 10 人、上海にいた方が 1

人、計 11 人の日本に戻ってこられた方の中で 6 人が新潟県関係者ということです。そのうち柏崎市民である 1 人は、現在ご家族を含め、発熱等の症状もなく良好な状況ですが、ご本人並びに会社としては、10 日間の潜伏期間はもうすでに終わっているが検査を受けたいというご希望をずっと持っています。まだその検査は実現しておりません。これは国が示す条件、武漢などに長期滞在している、症状が出ている、この二つの条件を満たしている者が検査の対象になるということからです。この国の示す条件により未だ検査が受けられないということです。また市民の皆さんの不安もありますので検査を受けさせていただきたいということは私からも県にお願いをしてきたところです。

(1) 柏崎市地域公共交通シンポジウムを開催

ー市民の皆さんと「くらしの交通」について考えます

(主管：企画政策課)

高齢化が進み、地域のご高齢者の方々の生活を支える交通手段がない。免許を返納したいが免許を返納したら、病院や買い物に行く手段がなくなってしまう。バスも少ないというようなお話。ところがバスやタクシー事業者は、運転手が足りない。それから乗客が少ない。採算が取れない。というような悪循環が続いているわけです。私どもは昨年 10 月からは市内路線バス全線で、65 歳以上半額を実施し、使って残そうということをしているわけですが、正直なところ利用者の増が図られているわけではありません。今後の柏崎の地域交通について、同じ市内でも他の地域ではこういう工夫をしているということも含めて知っていただきたく、この問題意識を共有していくということで今回のシンポジウムを開催します。

(2) 一般社団法人柏崎観光協会、高柳町観光協会、西山町観光協会が統合で合意

(主管：商業観光課)

一般社団法人柏崎観光協会、高柳町観光協会、西山町観光協会が統合することで合意をしました。統合協定書の調印式を 3 月 5 日に行います。各協会の会長 3 人にお越しいただき、私も立会人となってこの三つの観光協会が統合するということです。三つが一緒になってまさに力強くなって柏崎の観光を大いに発信していただければありがたいと思っていますし、柏崎市もこの統合を機に観光事業、外国の方がお越しいただくということも含めて、より一層柏崎の魅力をアピールする機関になっていただければと思っています。

(3) エネルギー政策に関する市民意識調査の実施

(主管：電源エネルギー戦略室)

一昨年3月に、柏崎市地域エネルギービジョンをまとめました。具体的には、原子力発電所は当面の間、限定的ながらその価値を認め、一方で、そこにとどまることなく再生可能エネルギーも柏崎の産業にしていく脱炭素のまち3.0を目指していこうというものです。既に今年度も地域エネルギー会社の設立可能性調査を行っています。12月にはその中間報告を議会の皆さんにもお話をさせていただいたところです。議会の方々のお話も伺っておりますが、こういった柏崎市の方向性、つまり脱炭素のまち3.0を目指して当面の間2.5に進む。エネルギー会社を作っていく可能性調査をしています、ということを含めて、市民の皆さんを対象に意識調査を行うものです。

(4) 原子力発電所に関する意見交換会を開催—12人の意見発表者を募集

(主管：防災・原子力課)

直接市民の皆さんからいただいたご意見やご質問に、私がお答えします。今年も是非多くの方々からご意見や、またご質問を承れればと思っています。意見発表者は、18歳以上の市内在住者から公募により決定します。特に年齢制限は設けませんが、若い方々、今までこういった場所で発言したことがない方から、ご発言いただければありがたいと思っています。もちろん今までお話しいただいた方の参加を制限するものではありません。

(5) 水球のまち柏崎のフレーム切手が登場

(主管：水球のまち推進室)

いよいよ東京オリンピック・パラリンピック2020も近づいてきました。そういった意味でセルビア、モンテネグロとのホストタウンなどを含めて、水球のまちをアピールするチャンスも時間的にも迫ってきたところで、日本郵政株式会社からの協力を得ながら水球のまちのフレーム切手を作らせていただきます。日本郵便株式会社信越支社からお送りいただきます。

(6) 令和4(2022)年以降も20歳で成人式を開催

(主管：文化・生涯学習課)

成人年齢が18歳になることに伴い成人式の対象年齢について、すでに他の自治体からも発表されているところですが、私どもは成人式という名称ではなく「二十歳のつどい」ということで、従来通りの5月3日を開催日として行います。少し早いようですが令和4(2022)年以降も二十歳のつどいということで20歳のお祝いをさせていただきます。

2 質疑応答

◎エネルギー政策に関する市民意識調査に関する質問

記者：エネルギー政策に関する意識調査とは、具体的な設問はどのようなものか。

市長：具体的にエネルギー産業はいろいろあるが、こういった産業を作ることには期待しますとか、もしくは原子力発電所の今後はどう考えていますかということを含めた全部で12項目です。

記者：実際、柏崎刈羽の6、7号機の再稼働の可否についても問うのか。

市長：関連した設問は用意しています。

記者：それは、いずれ市として判断する時の参考材料にもするのか。

市長：先月申し上げましたけれども、そういったこともあります。

記者：意識調査は、2月14日に発送して、とりまとめの時期はいつになるのか。

市長：締め切りは3月2日で、設問数も10問前後ですので、それほど時間かからないのではないかと考えています。最低でも1か月ぐらいではないかと思えます。

記者：新しいエネルギーのまち2.5は、市長の公約、施策でもあるわけで、それに対する市民への理解度というか評価というのは、市長自身もその結果は重く受け止めるのか。

市長：私も非常に興味深くその結果を待ちたいと思っています。もちろんそのことだけではなく、市民の皆さんがフラットにどのように期待されているのかという部分を聞かせていただきたいと考えています。議会とも対話をしながら地域エネルギービジョンの策定、地域エネルギー会社の調査を進めてきたわけですが、市民の皆さんがどのようにお考えなのかということをお聞かせいただきたいと考えています。

◎3つの観光協会統合に関する質問

記者：三つの観光協会が統合されるということだが、いつ頃から協議が進められていたのか。そしてそれぞれで活動に取り組んできたと思われるが、今後はどういった形で引き継いでいくのかといった話し合いはされたのか。

市長：それぞれ特徴ある活動に取り組んできたと承知しているが、スタッフや財源といった部分で制限があると協会側からも聞いています。その一方で活動が停滞していたということもありますので、それらを踏まえて1年ほど前からそれぞれ話し合いを進めてきたと承知しています。

記者：協会の統合は特に事業峻別との関係はないのか。

市長：目的は、合併して1つの自治体となった柏崎の観光を、より一層発信し、また多くの方々に柏崎にお越しいただきたいので、合理的にその発信量を多くするためにはどうしたらいいのかということで、事業峻別の観点がありますが、事業峻別の直接の対象になったということではありません。

記者：市のほうから合併するように持ち掛けたのか。

市長：それは市としても問題意識は持っていましたので、やはり統合して、より合理的な、そして発信量を多くしていくべきではないかということは、それぞれの協会にも伝えたところです。

市長：先ほどの観光協会の統合に関して事業峻別が関係ないのかということでしたが、一部見直しということで業務の効率化を図るため、観光協会の統合に向けた協議を進めるというかたちで指示を出していました。先ほど申し上げたことは、事業峻別と関係しているということで訂正させていただきます。

◎使用済み核燃料税の累進課税化に関する質問

記者： 1月に社長と話し合いされた後、事務方の協議は開かれたのか。

市長：何回も開いています。

記者： 進捗はどうか。

市長：進捗具合は現状では山の例えで恐縮ですが、少なくとも8合目には至っているというところではあります。

記者： この1か月で具体的に進捗した部分はあるのか。

市長：使用済み核燃料を運び出せない状態で、経年累進課税化するというのは法的におかしいのではないかと東京電力側のご指摘に対しては、運び出せない責任は柏崎市にあるのではなくて東京電力や国にあるということを示しているわけで、法的にも課題があるならば、それはやはり私どもも条例の制定に当たって解決しなければいけないということで協議を重ね、その運び出せない状態に課税するのではなく、法的な問題をクリアするというかたちで、経年累進課税化の条例案を提示させていただくということで今に至っているところではあります。

記者： その条例案はすでに東京電力側に示しているのか。

市長：示しています。その条例案を基に今最終的な詰めを、意見交換させていただいているところではあります。

記者： この2月定例会議で条例化を目指すというご意向もあると思うが、そこに向けて間に合いそうか。

市長：何とか間に合わせたいという意思を持っていますし、東京電力もその意識はあると考

えています。

記者：あとはその条例案を東京電力が OK すれば、そのまま議会提案までいくということなのか。

市長：実質的な部分をご了解いただいていると思いますが、文言をどのように書き込むかというところで最終調整をしているとご理解いただきたいと思います。

記者：市長としては、ここまでくれば、合意に向けてほぼ行けるという考えか。

市長：行けるだろうと考えていますし、そう確信しています。

記者：すでに条例案を示されているということだが、どういったものを示されているのか。

市長：1 キログラム当たりいくらにするかという単価の部分です。それから経年累進課税化するのは、どういうタイミングで行うのかといったことも含めた条例案です。もちろん今までは目的税であったところを普通税にするわけですから、そういった部分も変わってきます。

記者：どういった比率の課税を掛けることで今東京電力に示しているのか。

市長：搬出できるようになった時期にあっても搬出されないものに対して、1 年ごとに税率を上げていくというところが今お話できるところです。

記者：上げられていく税率の、まさにそのどれくらいかというところを今話し合っているという感じか。

市長：税額も含めて、経年累進の割合の部分のたぶんご質問だろうと思います。その割合も含めて今最終的な調整に入っているところです。

記者：東京電力からは、もう実質的な了解を得られているということで認識しているとのこ

とだが、東京電力としてはその経年累進課税の導入については、了承したということか。

市長：どのような文言を使って、その時期を表現するかということも含めて調整していますので、経年累進課税化という部分に対する理解、東京電力の理解は得られていると私は考えています。

記者：今の部分に関してなんですけど、基本税のところについても東京電力からは、ほぼ了承を得ている、文言を調整しているという段階まで来ているのか。

市長：基本税の部分は、基本的に文言というより数字です。今1キログラム当たり480円の単価ですが、それを上げるという方向で今お示しをしています。この金額に関しても何回かやり取りがありましたが、基本的にはその基本税の部分の数字に対して東京電力さんからは今の段階では話を聞いていません。基本的な税額に関しては、ご理解をいただいていると思っています。

記者：今調整している部分は、経年累進課税の文言の調整の部分が大きいのか。

市長：そのように私は考えています。

記者：まだ言えないかもしれないですが、基本税はどの程度上げるのか。

市長：まだ話せません。ただ、年末に別件で青森県むつ市の市長が来られて意見交換をさせていただきました。むつ市の税額が私も少し驚くほどの税額でした。ということを見ると、むつ市で考えられているほどの税額ではありません。

記者：基本税はその新しく作られる条例の中に入っているのか。

市長：もちろんです。

記者：その搬出が可能になってからなのか、それとも基本税はそのまま上がるのか、上がる

のであればいつ頃か。

市長：2段階あります。1段階目は単価のアップ。そして搬出可能になった段階から経年累進課税化が始まるということです。

記者：単価のアップは搬出可能問わずか。

市長：関係ないです。

記者：その単価アップっていつ頃。

市長：条例が制定されときからです。

記者：市長選挙が予定されている11月までには導入ということを考えているのか。

市長：市長選挙は関係ないです。条例がいつ制定されるかということになりますし、もちろん年度途中になるかならないかわかりませんが、私の公約としての使用済み核燃料税の経年累進課税化ということになれば、この条例が成立すれば公約的には果たされるということになるかと思えます。実際にそれが経年累進課税化として税率が、だんだん上がっていくのは、実際に搬出可能になった時期、そうでないと法的な課題があるというふうに指摘を受けているということです。

記者：確認なのですが、今条例が施行されれば、単純に第一段階の単価アップは果たされると。これで確実に市の税収としてはいくらかアップするわけで、その増えた税収の使い道というのはどのようなことを考えているか。

市長：財政需要として、すでにお示ししているところです。従来の原子力関係啓蒙啓発事業、原子力安全対策費、産業振興費、観光振興、民生安定対策費が中心になるだろうと考えています。

記者：新しいものに使うというよりは、今使っているものを拡充するというようなイメージか。

市長：項目は今と同じですが、具体的な部分はまだ決めていません。

◎安定ヨウ素剤の事前配布に関する質問

記者：昨日、小泉環境大臣が安定ヨウ素剤の事前配布に関して、半径 30 キロメートル圏内にも積極的に配布をするように都道府県に要請したという報告もありましたが今現在、柏崎市では希望者も含めて配布していないが、どのような対応をしていくのか。

市長：今までの原子力災害対策指針というものはこうだったが、国として半径 30 キロメートル圏内にも事前配布をするという指針の改定であれば明確なものですが、そうではないように感じています。あくまでも今までのできる規定という部分で、私どももこの半径 30 キロメートル圏内での安定ヨウ素剤の事前配布を全部行うということになれば、人員も予算も含めて方法をどうするのか。財源は国がきちんと確保するのかということも含めて、正確なものが規定されてないままで突然出されたことが、果たしていいことなのかどうなのかはわかりません。もちろん大臣にしても国にしても住民の方々の気持ち、安全や安心といったものを思っただけの発言が今直接的に、誰もが納得できるような報道の発表のされ方では今の段階ではないというのが私の感想です。

記者：追加で、安定ヨウ素剤の件ですが、半径 30 キロメートル圏内の事前配布ということで、市長としては改めてどのような考えか。

市長：今はっきり言って半径 5 キロメートル圏内でも 100 パーセント配布しきれてないわけです。そうすると報道にあるように柏崎刈羽原発の半径 30 キロメートル圏内という、40 万人以上いらっしゃるわけで、その方々にどうやって配布するのかは今のところ想像できません。

記者：金額の費用負担とか、その配布の時の要員を揃えとなれば、もう事前配布したほう

がいいという考えはあるか。

市長：国が原則として医師が関与して行うべきであると規定していて、皆さんにお渡しして自由に飲んでくださいというべきものではないわけです。もちろん大臣がおっしゃっている部分は、福島の際に、有効に機能しなかったというご指摘も十分に分かります。私どももそれは本当に大きな課題だと思っておりますが、とは言え半径 30 キロメートル圏内まで広げて全員に持たせるにしても、今回、大臣は公共施設、町村役場や保健所などの公共施設における保健師などによる事前配布と話されているようですが、何百人、何千人もの保健師がこの半径 30 キロメートル圏内にいるわけではないわけです。こういったことをどうするのかという部分の有効性、本当にできるのだろうか、できるとすればどのような方法があるのかということに関して、私のレベルでは今のところまだ想像がつかないというところです。

以上